

ウェブアクセシビリティについて

目次

- ・ ウェブサイトを使う際の問題点 (P 3)
- ・ ウェブアクセシビリティとは (P 4)
- ・ J I S について (P 5)
- ・ J I S の変遷①② (P 7, 8)
- ・ レベル A、レベル A A、レベル A A A の区分 (P 9 ~ 11)
- ・ ウェブアクセシビリティのチェックツール三選 (P 12)
- ・ まとめ (P 13)

ウェブサイトを使う際の問題点

- ・音声読み上げソフトが使えず、視覚障がい者が情報を得られない
- ・字幕や記録がないために内容を把握できない
- ・背景や文字のコントラスト比が確保されておらず高齢者や色覚障がい者は判読できない



ウェブアクセシビリティの登場

ウェブアクセシビリティとは

- ・ウェブ (web)

ワールドワイドウェブの略称。世界中どこにいてもコンピュータなどによって情報を得られるシステム。

+

- ・アクセシビリティ (accessibility)

「どんな人でも使えるよう意識する、使いやすいように工夫する」という意。

↓

- ・ウェブアクセシビリティ

高齢者や障がい者など心身の機能に制約のある人でも年齢的、身体的条件にも関わらず、ウェブで提供されている情報にアクセスし利用できること。

主観的な使いやすさは万人にとっての
使いやすさとは限らない



全ての人に通じる使いやすさの基準
(J I S) が必要

JIS X 8341-3:2016とは

- ウェブアクセシビリティの詳細な程度を定めた規格
- J I S（日本工業規格）のうちの一つ
- 大きくレベルA、レベルA A、レベルA A Aの段階がある

JISの変遷①

2004年6月

「JIS X 8341-3:2004」が初めて制定（日本）

2008年12月

「WCAG (Web Content Accessibility Guidelines) 2.0」がW3C勧告を受ける（世界）

2010年8月

「WCAG2.0」を取り入れた形で「JIS X 8341-3:2004」が改正され、
「JIS X 8341-3:2010」となる（日本）

J I Sの変遷②

▶ 2012年10月

「WCAG2.0」がそのまま「ISO/IEC 40500:2012」になった（世界）

▶ 2016年3月

その影響を受けて一致規約となるように改正され、「JIS X 8341-3:2016」となった（日本）

レベルA

- ・ウェブに使うに当たっての最低ライン
- ・コントラスト比、文字画像、テキストサイズに関する記述はなし
- ・その他
 - 「画像や動画等に代替テキストを提供すること」
 - 「動画の音声情報を字幕として提供すること」
 - 「全てのコンテンツをキーボードだけで利用可能にすること」等

レベルA A

- ・ 基本的な望ましい基準

①コントラスト比 4.5 : 1 (大きい文字の場合3 : 1)

②文字画像 HTMLとCSSで実現不可能のみ文字画像を利用可能

③テキストサイズ 200%まで変更してもレイアウトが崩れない程度

④その他

「画像に音声解説を提供すること」

レベルA A A

・発展的な基準

①コントラスト比 7:1 (大きい文字の場合4.5:1)

②文字画像 組織のロゴや書体のサンプルなど必要不可欠なもの以外、**使用不可**

③テキストサイズ

- ・ユーザーが背景色、前景色を選べるようにすること
- ・一行あたり全角40文字程度であること
- ・両端揃えを使わないこと
- ・1.5倍以上の十分な行送りであること
- ・文字サイズを200%まで変更してもレイアウト等が崩れず、横スクロールが発生しないこと

ウェブアクセシビリティの チェックツール三選

①michecker

総務省が提供するチェックツール。「問題あり」「問題の可能性あり」「要判断箇所」「手動確認」のいずれかの評価と詳細なアドバイス付き。

②NVDA（日本版）

20カ国語に対応している音声読み上げソフト。ショートカットキーを使い違和感がないか調べる。

③color tester

JIS規格に基づきコントラスト比のチェックを入れる。

まとめ

客観的な評価も必要だが、まずはなにより人に見せる可能性のある文書すべてにウェブアクセシビリティの精神を持って相手を思いやる配慮をしようと思うことが大事。

ご清聴ありがとうございました。